

新規事業として進むべき道を知財情報から見出す



事業内容

金属製品製造業。

冷間鍛造金型の一貫生産のほか、精密プレス金型加工、真空熱処理及びソルト熱処理などを得意とする。

抱えていた課題

自社開発のコーティング技術を活かし、主にガソリン自動車用部品の金型を製造してきたが、ガソリン車からEV(電気自動車)への市場の変化が見込まれる中、ガソリン車以外の新分野への用途展開が急務となった。しかし、他業界への知見不足から、ビジネスの具体的なイメージを形にすることができず、見通しが立っていなかった。

支援項目

- ・ 自社の技術の棚卸しによる強みの把握
- ・ コーティング技術の販路開拓

支援効果、今後への期待

未開拓領域への進出や、新たなビジネスモデルの確立など、自社内にはない視点で具体的な提案があり、実現に向けて動き出しているものも出てきた。すぐに成果や変化(売上増など)につながるものではないが、この挑戦をきっかけに社員の意識が変化していくことを期待している。

【現時点での
支援達成度】

60%

支援チームメンバー

統括/事業プロデューサー

株式会社IA Beacon/秀和特許事務所
弁理士 下田 俊明 氏

チームリーダー

事業プロデューサー補佐
みさき国際特許事務所 弁理士 横井 敏弘 氏

専門家

Management & Technology Consultant
代表 森下 康伸 氏

支援機関

石川県産業創出支援機構(ISICO)
コンサルティング事業部経営支援課
課長代理 池田 亨 氏
主査 清水 祐太郎 氏

石川県工業試験場
機械金属部主任研究員 鷹合 滋樹 氏

INPIT石川県知財総合支援窓口
支援担当者 橋爪 慎哉 氏



フジタ技研株式会社

製造業(一般機器)

- ・ 所在地: 石川県能美市粟生町西702番(粟生工業団地内) ■ 創業: 1970年(昭和45年)4月
- ・ 資本金: 6000万円 ■ 従業員数: 200名 ■ HP: <https://www.fujita-gkn.co.jp/>
- ・ 認証・認定・資格等: 経営革新計画の認証、石川県「ニッチトップ企業等育成事業」認定、各航空機メーカー・米軍・防衛省から特殊工程の認定を取得





独自技術・強み

・得意分野

航空機産業で認められた熱処理技術をコアとした冷間鍛造金型の一貫生産のほか、精密プレス金型加工、真空熱処理及びソルト熱処理、CVD・PVD表面処理、EDM・WEDM加工を得意とする。なかでも自社開発のPVDコーティング(FUPC)は金型に特化したもので、プレス金型の高寿命化を実現。金型コストを削減する製品として自動車や電子機器分野で高い評価を得ている。

・一貫生産体制

金型部品の一貫生産(プレス加工、熱処理、コーティング)を行っている。同業他社は金型の加工だけを行っていることが多いが、当社は、プレス加工、熱処理、コーティングの全工程を自社で行うことにより、高品質を確保し、短納期に対応している。

・コーティング技術とノウハウ

コーティングとは、金属などの表面に特殊な膜を形成し、耐久性や機能性を高める技術。競合他社が追いつけてきており、特許やノウハウ管理が重要になっている。

真空熱処理技術を業界に先駆けて導入。航空機メーカーや防衛省の基準も満たす技術力と、一貫生産体制による高い品質で、従来品の数十倍という耐久性を実現している。

企業インタビュー

「自社に何ができるのか」 新たな可能性を探すために

フジタ技研株式会社 執行役員 研究開発部 部長 南条 吉保 氏

当社は、金型向けに特化したFUPCコーティングなど、冷間鍛造やプレス金型の高寿命化を実現する独自のコーティング技術を柱に、ガソリン自動車部品用の金型を製造しています。自動車のEV化が加速する中でガソリン車製造用金型の需要も減少しており、ガソリン車業界で培った技術を他分野にも広げていく、新たな事業展開に挑む必要が出てきました。しかし、当社の技術が他分野でどのように映るのか、また何ができるのか、社内に知見がないと進むべき道を探ることができません。そんな時、石川県庁からお声掛けいただき、令和6年度から特許庁「石川県知財経営支援モデル地域創出事業」(以下「モデル事業」)に参加することにしました。特許庁からの支援を受けること自体、初めてのことでしたので、当初はどのような支援がどういった形で受けられるのかよく分かっていませんでした。成果についても具体的なイメージがあったわけではなく、これから新規事業として取り組む分野や方向性が一つでも見つかることを期待していました。

多分野の専門家が 自社のブレーンに

支援1年目の令和6年度は、困っている課題や当社の強みなどのヒアリングから始まりました。当社のものづくりは複雑で特殊なため、支援チームメンバーに理解してもらうまである程度の時間を要しましたが、自社を見直す良い機会になったと感じています。

2年目となる令和7年度は、支援チームの専門家の方々とディスカッ

ションしながら目指すべき方向を手探りで探していきました。支援チームに自社の特許情報を分析していただき、競合他社がどういった分野に興味を持っているのかを把握し、当社の技術や知見を活用して参入できる分野を洗い出していただきました。また、当社はこれまでウェブサイトを中心に情報発信を行ってききましたが、ISICOからは、SNS活用の提案があり、ウェブサイト改修やPR動画制作に活用できる補助金の情報も頂きました。これらの取組により、当社の存在や技術力を一般の人々にも広く知っていただきブランドイメージの向上につなげることができます。最終的には、SNS等を見た先方から依頼が来る営業スタイルを確立することを目指しています。

モデル事業での支援を受け、自社の技術を改めて掘り下げ、マーケ

ティングの知見やノウハウを社内に蓄積することもできました。知財、新規事業、販路拡大、ブランド戦略など多岐にわたる専門家に参画してもらい、これまで接点がなかった専門家とも知り合えたことは、当社にとって意義のあることだったと言えます。



見えてきた いくつかの可能性

フジタ技研株式会社 執行役員 研究開発部 部長 南条 吉保 氏

現在は、医療機器分野への展開や、超音波モーター技術と当社のコーティング技術との連携について、実現に向けた検討に入っています。ここまで具体的な提案をもらえるとは予想していなかったのですが、新規事業への道筋まで共に考えてもらえるのは、とてもありがたいです。

令和8年度も引き続き、活発な議論を通して新たな可能性を探していく予定です。直ちに事業成長や売上増といった成果が出る段階ではありませんが、SNSによる発信など社内になされた動きも生まれています。本事業のメリットは、私たちにない視点を持った複数の専門家がチームとなって当社の今後について考え、動いてくれることです。参加した意義は大きかったと思っています。



自社の未来に向けた 確かな手ごたえ

フジタ技研株式会社 営業部 次長 鍋野 徹 氏

これまで考えたことのない、全く新しい分野への挑戦が少しずつ形になってきており、とても楽しみです。今回助言していただいている、顧客の要望を受けて当社で試作品を完成させ、他社で量産するという、ライセンスを使った事業展開もその一つです。凝り固まった私たちの頭では想像もつかないアイデアや新しい視点からの提案は、自社への自信やプライドを醸成するものでもあります。営業部門においては、これまでは既存顧客の注文ベースで仕事をしていましたが、「自社の技術や経験で何か役に立てることはないか」という考え方が広がってきています。

当初、モデル事業には開発部門だけが参加していましたが、支援チームのアドバイスで営業部門も加わりました。それまで両部門は業務上相対することも多かったのですが、支援のディスカッションを通して互いの思いや苦勞を知り、理解し合うことができました。このような変化が、新分野への挑戦にもつながっていくのではないかと感じています。



あらゆる角度から 共に考えるという支援

事業プロデューサー補佐 みさき国際特許事務所 弁理士 横井 敏弘 氏

モデル事業の支援は、様々な専門性を持った複数の支援機関からなる支援チームを編成し、多方面から行うため、フジタ技研のものづくりに対する、チームメンバーの理解度をそろえることに時間が掛かりました。「進むべき分野について検討したい」という希望に対し、「何をしたら支援になるのか」という答えにたどり着くまではゴールが見えない状態でしたが、「あらゆる可能性を探して一つ一つ深く考えてみる」ことが支援なのだという方向性を、フジタ技研と支援チームとで共有してからは、活発なディスカッションができています。

私が感じたフジタ技研の課題は、社外に飛び出して様々な提案を試みる姿勢が不足しているのではないかと、いうことでした。しかし、コーティングなどの製造コストを考えると、営業担当者が「提案するまでもない」と結論付けてしまうのはむしろ当然のことで、だからこそもう一歩踏み込んで新しい提案先を探すことが難しかったのだと思います。

今後は「こまめに世に問うていくこと」がフジタ技研の文化になるような伴走ができればと考えています。まずは打席に立ち地道にバツ



トを振り続ける。それがフジタ技研の企業価値を高める道であり、組織の活性化にもつながります。令和8年度も続く支援での提案をぜひ社内で正面から捉え、どこまでできるか、どうしたらできるかを深く考えてほしいと思います。アプローチを変えながら、これまで作ってきたもの、培ってきた技術の中から重要なプロセスを選び、さらに大きく育てていくという新規事業案件を自社で完遂できる組織として自走するまで、見届けたいと思っています。

主な知財

特許6887606

被覆部材、表面被覆金型、及び成膜方法

特願2024-042737

被覆部材、及び、表面被覆金型



支援面談の様子